

大阪市立大学 正 会 員 角野昇八

大阪市立大学 学生会員 大谷暁史

1. まえがき 物質的ゆたかさよりも心のゆとりを求める人々が多くなった世の中の動きを受けて、都市河川に対しても、従来からの治水や利水機能のみならず良好な環境の形成と保全が求められるようになってきている。このようなニーズに的確に応えた川づくりを行っていくためには、周辺住民の意見を取り入れた河川環境整備が不可欠のものとなる。特に大阪は、「水の都」とよばれる一方で、古代よりたびたび洪水被害を受け、周辺住民と河川との関わり合いがことさらに深い土地柄にある。

そこで、大阪のいくつかの河川を取り上げ、その周辺住民に「水質」、「環境・親水性」、「治水」、「歴史」の項目を柱とする内容でアンケートを行い、住民意識を調査した。これまでに同様の調査例はあるが、著者の知る限りそれらは大阪の川全体に関するものであり、特定河川の周辺住民に対する調査とその内容の河川ごとの比較を行った例はみられない。なお、ここでは、紙面の制約から調査内容のうち河川環境についての結果のみを報告する。

2. アンケート調査対象河川 アンケート実施の河川は、先史時代以来低平地にあつて、過去いくたびかの浸水被害を被り、現在は屋根の高さにも達する矢板護岸をもつ寝屋川流域（大東市内の4地区）、過去河口港として栄える一方で高潮被害に脅かされている尻無川（右岸の港区内6地区）、一時期水質汚濁が激しかったが「ふるさとの川整備事業」で環境整備がされている城北川（城東区内の1地区）、さらに「万葉集」にも詠われる長い歴史を有するものの、最近は下水3次処理水をせせらぎとして流している細江川せせらぎ（住吉区内の4地区）で行った。

3. 調査方法と回答者の内訳 アンケート調査用紙の配布と回収は、当該の区や自治体を通じて紹介してもらった自治会長や町会長に依頼する形で行い、一部は戸別訪問によって配布と回収を直接行った。各河川ごとの回答者の内訳を表-1に示す。

表-1 回答者の内訳（人）

調査対象河川	男	女	不明	計
城北川	45	38	0	83
細江川	18	59	1	78
尻無川	57	42	2	101
寝屋川	62	74	1	137
計	182	213	4	399

4. 調査結果

1) 河川周辺環境に対する点数評価

図-1は、河川周辺住民が過去にみたベストの河川環境を100点として、居住地周辺の河川環境を採点してもらった結果の分布を示している。図によれば、その平均点は、遊歩道などの河川整備のすすんだ城北川および下水3次処理の清浄水を流している細江川において高く、整備の進んでいない尻無川および高い矢板護岸をもつ寝屋川は低い評価となっている。さらにこの図を詳細に眺めれば、平均点を中心にした対称分布をもつ城北川を除いて、他の3川では高い評価と低い評価が分極する傾向がみられ、それは特に尻無川において激しい。すなわち、後でも述べるように、遊歩道という大きな環境整備施設を念頭において高評価を得ていると思われる城北川とは対照的に、他の川では、同一河川の環境を評価が異なる判断材料をとおして周

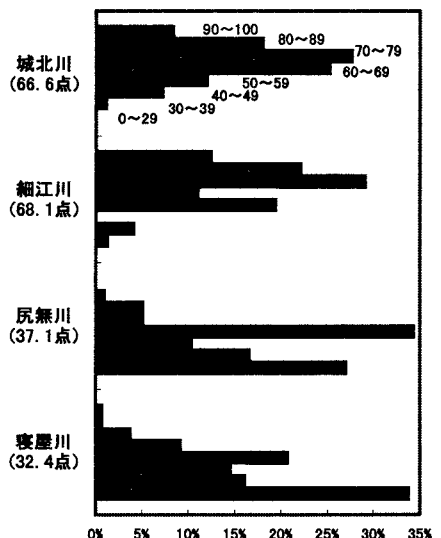


図-1 河川周辺の環境に関する周辺住民の点数評価（カッコ内は平均点）

辺住民がみていることを窺うことができる。

2) 過去 10 年の河川環境変化に対する意識

図-1 が現在の河川環境の評価とすれば、過去 10 年間の環境変化の良し悪しを訊ねた結果が図-2 である。ここでも、城北川および細江川で「良くなった」あるいは「少しは良くなった」が 84%あるいは 78%を占めているのに対して、寝屋川では 55%とやや低く、尻無川では 37%でかなり低い評価となっている。ただし、後の 2 川でも、「かわらない」をいれれば寝屋川で 84%、尻無川で 78%となって、河川環境が悪くなったとする考え方は非常に少ない。

3) 河川環境評価の詳細

過去 10 年間で環境が良くなった、あるいは悪くなったと答えた回答者にその理由を訊ねてみた。図-3 は、各河川で良くなった理由に関する回答結果を示すが（複数回答）、川を眺めながら歩ける数 km もの遊歩道が川沿いにある城北川では「遊歩道の整備」と答えた人が圧倒的に多く、また寝屋川でもその数は「せせらぎや噴水」と回答した人よりも多い。このことより、河川整備はせせらぎや噴水などのスポット的な施設よりも、河川のオープンスペースを時間と距離をかけて移動しながら楽しむことのできる施設が望まれているといえる。一方、細江川の場合は、ぬきんでて多い項目はなく、環境改善に関する整備内容がトータルに評価されているといえる。また、整備の進んでいない尻無川の場合は、ゴミの減少や悪臭の減少をあげた人がもっとも多く、これら河川環境評価の原点指標とも言える項目の改善だけでも河川環境整備に大きく寄与することが示されている。

良くなった理由を訊ねた結果の図-3 に対して、回

答者数は少なかったものの、悪くなったと答えた人にその理由を訊ねた結果を図-4 に示す（複数回答）。城北川で緑の減少をあげている人が多いのが目立ち、緑の犠牲のない環境整備が望まれていると言える。また、典型的都市河川環境にあるこの川と尻無川とでは、構造物による景観悪化をあげている人が多い。寝屋川では、悪臭をあげる人が多い。

5. あとがき 以上の調査結果より、現在の河川環境整備はおおむね周辺住民によって支持されているといえる。特に、川沿いの樹木でおおわれた長い遊歩道の整備は住民にとっての大きなやすらぎの場所となりそうである。また、施設整備以前に、ゴミや悪臭の除去は河川環境保持や改善に欠かせない基本要目であるといえる。

参考文献 1) 平成 6 年度第 4 回市政モニター報告書「大阪の河川」、大阪市民政局。

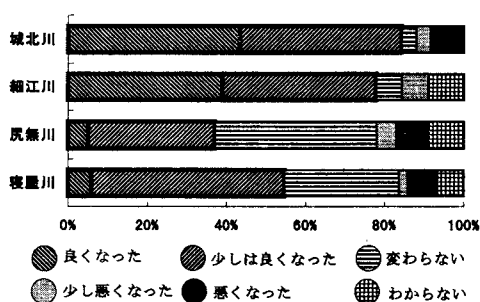


図-2 ここ 10 年の河川周辺の環境に関する周辺住民の意識

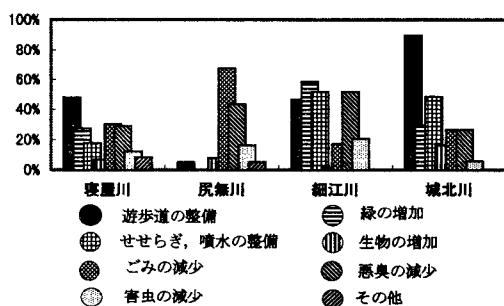


図-3 良くなったと思われる理由

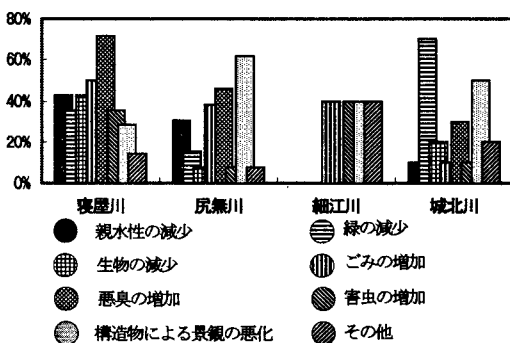


図-4 悪くなったと思われる理由